

考え方で変わる私の世界

中 一

私たちが生活する社会には、様々な容姿や特徴の人々がいる。私は、学校の授業やテレビ、小説などで、この社会にはまだ多くの差別や偏見が存在しているということを知った。

「みんな違ってみんないい」そんな言葉はよく耳にするが、現実には、私の身近な生活にも、違う考え方や個性を大切にできていないと感じる場面が存在する。私たちが、差別や偏見に負けず、気持ちよく生活していくために、どのように考え、行動すればよいのかを自分の生活と結び付けて考えたい。

私は小さいときから、周りの同級生よりもかなり背が低い。日常生活で困るほどではないし、友達から面と向かってからかわれることもないが、長い間気にしていた。ただ、欲しい服のサイズがなかったり、ジェットコースターに乗れなかったりと不便なことはよくあった。ときには悲しいこともある。去年ピアノの発表会で、最後に集合写

真を撮る場面があった。カメラマンが、

「幼稚園の子とか小さい子は前のいすに座って、小学生や中学生は後ろに立ってね。」

と言った。私はそのとき、六年生だったので後ろに立っていたが、カメラマンが私に、

「その小さい子、前に座ってくれ。」

と言った。カメラマンは、私が隠れてしまわないように、気を遣って前に座らせてくれたのだろうが、私は少し傷ついた。

しかし、そんな悩みを軽くしてくれることもあった。私の友達は、とても背が高く、同い年なのに大人っぽくてかっこよいので、私とは全然違うと、いつも一人で落ち込んでいた。小学校で最後の身体測定があった日、私が一センチしか伸びていなくて、落ち込んでいたら、背の高い友達が、

「また身長三センチも伸びちゃったな。」

と少し残念そうに言った。私が、

「身長伸びてうれしくないの。」

と聞くと、

「背が大きくて、あまり着たい服のサイズがないし、年上に見られちゃうことも多くて、あまり大きくなりたくないんだ。」

と言った。私は、誰もが大きくなりたいわけではなく、大きくて悩んでいる人もいることを知って驚いた。背の高い友達と

「私たち真逆だね。」

と笑った。私はそのときから、以前ほど、自分の身長のことを気にしなくなった。

私は、今年から中学生になった。クラスの人数が、小学校の時の三倍になって急に世界が広がった気がする。最初は人間関係が心配だったが、クラスメイトは一人一人に個性があつてとても面白い。私みたいに小さい人もいれば、大きい人もいる。髪が長い人、短い人。眼鏡をしている人やパンスタイルの女の人もいる。だからといって、私たちはグループに分けたり、差別したりしていない。タイプが違う人でもみんな仲がよい。だから、毎日の学校生活がとても楽しい。

みんなが安心して、気持ちよく生活していくためには、お互いを認め尊重し合うことが大切だが、それは言葉で言うほど簡単ではない。この体験を通して考えたことが二つある。一つは、自分の欠点やコンプレックスを気にし過ぎず、周りの人の気遣いや思いやりに気付くことである。もう一つ

は、自分と人を比べて、ネガティブになるのではなく、自分の個性を前向きに捉える姿勢をもつことである。自分の考え方を変えるだけで、周りの景色も人との関係も大きく変わる。私が強く、前向きに変わること、周りの人にもよい影響を与えたい。その輪を広げ、笑顔と自信があふれる学校生活をみんなと送っていきたい。